

平成 23 年度

言語人文学会大会

http://hc3.seikyou.ne.jp/home/langue/index_genjin.htm

平成 23 年 8 月 6 日(土)

時 間 10:00～15:30

会 場 アイーナ(盛岡駅西口) 団体活動室

受付は 9 時半から

参加費は無料です

会員、一般の参加は事前申し込み不要です

高校生・高校教員の皆さんは申込書により申し込むようお願いいたします。学会ホームページにおいて申込書の様式をダウンロードして下記連絡先にファイルを添付してメールによりご連絡ください（あるいは FAX により 019-688-5577（大学総務部）高橋幸雄宛送信下さい）。

後 援 岩手県教育委員会 (財)岩手県国際交流協会

連絡・問合せ先

〒020-0183 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込 808 番地

電子メール t-yukio@morioka-u.ac.jp

盛岡大学文学部英語文化学科 高橋 幸雄

大会日程

09:55 開会宣言

10:00～11:00 基調講演 西 俊六会長（元盛岡大学教授・元高文連会長）

言語と人間

言語は人間性そのものである。そのような言語を「教える」と言うことはどのようなことか、あるいは「研究する」とはどういうことか、についていくつかの事柄について語ります。

11:00～12:30 研究発表 司会 榎本 暁（名城大学）

黄 慧 東京外国語大学大学院博士課程

オノマトペの使用実態に関する一考察—絵本に焦点を当てて—

日本語におけるオノマトペの使用実態に関する研究は小説およびマンガを中心に行われている。本稿では、インターネットで公開、閲覧できるようになっている絵本および市販の絵本 113 冊を資料として扱い、絵本におけるオノマトペの使用実態を明らかにすることを目的とする。113 冊から収集したオノマトペを考察した結果、小説およびマンガに用いられているオノマトペと違う形態的特徴を持つものが使用されていることが明らかになった。著者および作品によってオノマトペの使用状況も違ってくるが、全体的に多様なオノマトペが使用されていること、臨時的に作られるオノマトペよりも、オノマトペ辞典に載っている慣習的なオノマトペのほうが多用されていることが分かった。オノマトペは感性によるものであり、日本語において最も重要な役割を果たし、言語生活を豊かにするものである。絵本は子どもの感性を育成するために重要な役割を果たしていると言われている。そのため、子どものときから日本人としての感性を育成することを想定されて作られていることが伺える。

神原 利宗 東北大学大学院博士課程・日本学術振興会特別研究員

菅野 彰剛 東北大学

川島 隆太 東北大学

神経言語学からみた言語の理解

言語は脳の中でどのように理解されているのか。この問いに答えるため神経言語学の分野では、古くは脳を損傷した患者の生前の行動と死後の脳解剖のみにより検証を行ってきた。加えて近年では、科学の進歩に伴い脳機能イメージングという新たな実験手法が登場し、健常な人の言語を理解している際の脳活動の撮像・検証も行なわれている。本発表では、これまでの神経言語学の言語の理解に関する研究について概観を行う。

高橋 幸雄 盛岡大学

英語音声の音色の科学

英語の側音/l/には Dark [l]（たとえば school と culture の[l]）と Clear [l]（たとえば light と fellow の[l]）の二つのタイプがある。これらの二つの分布を観察、仮説、理論、推論、法則という五つの科学的要素を相互作用させることで捉える方法を提示する。

12:30～13:30 休憩

13:30～14:00 総会 事業報告などの協議 高橋 幸雄

14:00～15:10 記念講演 西田 博 顧問（法務省大臣官房審議官（矯正局担当））

言語教育と矯正教育

講演者は受刑者の矯正教育に携わっています。矯正教育において大きな意味合いを持つものの一つが言語教育です。国内外での PFI 刑務所での取り組みにふれることで言語教育、言語研究の大切さを説きます。

15:15 閉会宣言

言語人文学会の概要

言語人文学会が目指しているもの

言語人文学会は、岩手大学人文社会学部の言語系教員が中心となって平成7年(1995年)創設されました。これまで、多くの研究者の誕生を支援するとともに、言語と人間とのかかわりをテーマに、市民向けの研究公開を行うなど社会に開かれた学会として活動して参りました。本学会は平成22年初夏、盛岡大学に事務局を移し、今後もこれまでの基本的な立場を維持しながら活動を展開して参ります。

言語人文学会が目指しているものを端的に述べれば、(1)言語の研究、(2)言語教育、(3)人文科学の総合的な研究、を市民に向けたより開かれたものとし、これら三つの領域の振興を実現することです。言語研究一つをとってみても、単一の学問領域、言語学がなし得るものではありません。例えば、認知、意識、思考、さらには社会的コミュニケーション、社会心理学、地域の文化と歴史などの諸領域との連携の中で、言語という現象は捉えられるものです。

他方、今後の言語研究、人文科学研究の進展を考慮すると、理科教育と同様に、大学入学以前の高校生たちも含めた学会活動が必要であり、生徒たちの参画を強力に推進していきます。

主な活動内容

(1) 今後とも岩手・盛岡市を拠点として学会の研究活動を展開致します。当面は盛岡大学を中心として事務局を運営する予定にしております。

(2) 事業内容として、学会大会、Internet を介してのオンライン研究発表などを行います。新規の企画として、岩手県内などの高校に呼びかけて、高校生による発表を予定しております。同時に、多文化共生の機会ともすべく、母語が日本語ではない外国青年の参加についても検討しています。

(3) 会場については隔年で盛岡市と他都市での開催を検討しております。例えば、偶数年に盛岡大学・岩手大学で開催し、奇数年には他都市で行うという予定です。

(4) 会誌については Internet のホームページ、掲示板などにおいて(オンデマンド印刷を併用した)電子的に公刊するという方式を検討しているところです。

(5) 年会費は学会会員の場合は1千円、学生学会会員については減額する予定です。

(6) 今後、さらに詳細を検討します。その経過については下記において順次公開します。
http://hc3.seikyou.ne.jp/home/langue/index_genjin.htm

役員

平成 23 年 4 月 18 日(月)現在

会長 西 俊六 (元盛岡大学教授・元全国高等学校文化連盟会長) 副会長 高橋 幸雄 (盛岡大学)

顧問 西田 博 (法務省大臣官房審議官矯正局担当)

編集委員会

委員長 牧 秀樹 (岐阜大学) 委員 佐藤 直人 (聖徳大学)
委員 井土 慎二 (愛知県立芸術大学) 委員 高橋 幸雄

大会運営委員会

委員長代行 高橋 幸雄 委員 榎本 暁 (名城大学)
委員 細川 志保 (岩手大学特任研究員) 委員 新沼 史和 (盛岡大学)
委員 名久井 康宏 (八戸工大第一高等学校) 委員 齋藤 理一郎 (群馬県高校教員)
委員 横井 雅明 (岩手大学)

研究ネットワーク委員会

委員長 熊谷 哲孝 (富士大学) 委員 神原 利宗 (東北大学大学院生)
委員 石井 雄隆 (早稲田大学大学院生)

事務局

高橋 幸雄 吉田 智子 (盛岡大学職員)

組織のうち、三つの委員会の具体的、先進的な内容

【共通事項】

市民一般に開かれた学会活動を展開することで、言語学、言語教育、文学、文化研究の成果を広め、平行して高校生たちを含む、次代の研究を担う若手を育成する一助とする。

【編集委員会】

この委員会は研究成果を学術論文として結晶化させ、後世に残すということを任務としている。専門家たちによるピアレビューにより査読を行い、年刊の学会誌を公刊する。

【大会運営委員会】

この委員会は会員が一堂に会する定期大会を運営する。定期大会では高校生によるポスターセッション。個人研究発表。シンポジウム。講演などを含んでいる。

【研究ネットワーク委員会】

この委員会は Internet を介して会員が集うことのない環境下で研究を推進する。メーリングリストなどを利用することで、メール上で研究交流を展開する